

よもやまごみ日和

京都発！ごみ減量情報誌

91号



自分の容器で好きなものを
好きなだけ！ くるん京都

ESG を軸に全社一丸で環境経営
を推進 日本新薬株式会社

マクドナルド未来への投資
日本マクドナルド株式会社

なごみ日和
「舞鶴流木アート」

もっぺん物語
「京都フラワーサービス」

若い世代も「参加しやすい」活動
を目指して！ 上高野エコ推進会議

表紙デザイン
嵯峨美術大学 デザイン学科3年
稲堂丸 怜菜

この数字なあに？

毎分 100 万本

答えは web へ！

*トップページ「よもやま話 ごみ減のごみ袋」
をご覧ください。



京都市ごみ減量推進会議

特集



前列左から、小川さん、那波さん、「すみれや」オーナー春山さん、小杉さん、ロビンさん、後列左から、ピアンカさん、ポールさん、島藤（担当筆者）、高木さん

容器や包装のごみを出さず、自分の容器で好きなものを好きなだけ！

くるん京都

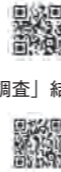
容器や包装のごみを出さない、パッケージフリーでのお買い物を、楽しく気軽なものにするために活動する「くるん京都」。国籍や年代の異なる個性豊かなメンバーが集まり、それぞれの専門性や知識を活かして、具体的な行動を提案している。その中の一つが「くるんお買い物マップ」の作成だ。メンバーの皆さんに、くるん京都立ち上げの経緯や「くるんお買い物マップ」に込める想いを伺った。

くるん京都は“もったいない”の心から生まれた

くるん京都は、プラスチックごみの減量や、量り売りの普及など、環境問題の為に何かできないかという思いを共有する仲間から生まれた。出会いは、京都市左京区にある「すみれや」*1に通うお客の1人だった小川さんが、独自に実施した量り売りショップのアンケート結果*2を、「すみれや」オーナーの春山さんに連絡したのがきっかけだった。「こんな素直な考えを自分1人で聞くだけでは、もったいない！」と思った春山さんが、お客様や知人に声をかけ集まったのが「くるん京都」の始まり。アンケートには、

量り売りに関心はあるけれど、どこにお店があるのかわからない、利用方法がわからないので利用し難い、容器持参が面倒くさい…など、様々な意見が寄せられていた。そこで、容器持参可能なお店や量り売りのお店の情報を集め、協力店を募り、「くるんお買い物マップ」作りがスタートする。

- *1 身体に優しいお野菜や食材、乾物と生活雑貨を取り扱うお店。
<https://sumireya.org>
- *2 Reach Out to Ecology (ROtE)「量り売りショップ潜在需要調査」結果報告：前編
<https://www.murr-ma.work/entry/2020/09/16/071834>



草の根活動で広がる「くるんお買い物マップ」

始めは、顔馴染みのお店や知人のお店に声をかけ、時には飛び込みでアプローチしたりと、お店の方に活動内容を一つ一つ説明し、協力店舗を増やしていった。今では食料品店を中心に、登録店舗は50店舗を超える。お店によっては、様々な理由からマップ登録への賛同を得られないこともあるが、その時は駄目でも今後考え方が変わり、世の中が変わったら嬉しい、そんな前向きな姿勢でアプローチを続ける。また、目印として協力店に提示してもらう共通のステッカーも考案。ステッカーやくるん京都のロゴデザインは、メンバーの高木さんが手掛けたオリジナルのものだ。「くるんお買い物マップ」を活用すれば、量り売りや



月一回のミーティングの様子 くるんお買い物マップステッカー

容器持参可能なお店を簡単に見つけることができ、誰でも気軽にパッケージフリーでのお買い物を楽しむことができる。環境問題に関心はあるけれど、なかなか行動に移せない…そんな方も、「くるんお買い物マップ」を片手に、まずはごみの出ないお買い物から始めてみてはどうだろうか。

「リサイクル = エコ」という考えから一歩前へ！

くるん京都では、ごみ減量に繋がる4Rを、暮らしの中に取り入れていくことを応援している。4Rとは、Refuse：断る、Reduce：減らす、Reuse：再利用する、Rot：たい肥化するの4つ。では、なぜRecycle：リサイ

クルがないのか…それはリサイクルが、断りも、減らしも、再利用もできない時の最終手段でしかないから。日本では、リサイクル全体に占めるサーマルリサイクル*3の割合が大きく、課題も多い。不要になったものがリサイクルされたら終わり、という事ではなく、大切なのは過程を理解すること。環境問題について一人一人が考え、自分ごととして

捉えて行動すること。「くるんお買い物マップ」や発信する情報が、持続可能な未来に近づいていくための手助けになればと願い、これからも活動を続ける。

※3 資源物や廃棄物を焼却処理した際に発生する排熱を回収し、熱エネルギーとして利用すること。

量り売りだけじゃない、心地よい循環

近年、さまざまな場面でよく耳にするエコ、サステナブル、SDGs…という言葉。京都にもエコにまつわるイベントや、量り売りショップを見かける機会が増えた。春山さんが営む「すみれや」では、食材の量り売りを6年程前から始めている。海外では野菜の裸売り、油や洗剤など、食品から日用品に至るまで、量り売りが当たり前である。一方、日本では殆どのが包装された状態でスーパーに並んでいるのが当たり前である。春山さんも「始めた当初は、容器持参でお買い物にきてくれるお客様は少なく、頭を悩ませた」と話す。容器持参のお買い物に馴染みのないお客様にどうやってアプローチしたらいいのか、周りの人から様々なアドバイスをもらい、お客様の声に耳を傾けながら、手探りで量り売りを続けてきたそう。そんな地道な努力が実を結び、数年前から徐々に量り売りが浸透し始め、今ではお客様からのリクエストで、パッケージ売りから量り売りに追加される商品も。更には、家で使わずに置いてある瓶や紙袋が、お客様からの寄付で集まっ

たりと、良い循環が生まれているという。また、在来種や固定種の種を自由に置いたり持ち帰ったりできる種の交換BOXや、欲しいものとあげたいものを自由に書いて掲示できるボードがあったりと、お店は商品を購入するだけでなく、お客様同士を繋ぐ役割も果たしている。春山さんは、「個性豊かな小さなお店が盛り上がることで、世の中の人のお買い物の選択肢を広げたい。お金では買えない人との繋がりや、生きていくための術を学べる場を育てていきたい」と語る。



「すみれや」量り売りコーナー



容器持参でのお買い物。食材を好きな量だけ購入できる。

ごみを出さないお買い物のススメ

- マイバッグから一歩進んで「マイ容器」を使ってみよう。まずは家にあるものから使えそうな容器を探してみよう。
- 蓋つきのタッパー、珪瑯製の保存容器、密閉できるガラス瓶など、買うものに合わせて持参しよう。
- お店の方も安心して商品を提供できるように、清潔感のある容器を心がけてね。

京都には古くから続く個人商店も多く、マップ登録がなくても容器持参のお買い物スタイルが今でも当たり前にある。お店の方に話しかけると、その日のおすすめ食材や調理法など、季節に合った美味しい食べ方を教えてもらえることも。そんなお店の方とのコミュニケーションが何より楽しい！



1 にぼし等の乾物はタッパーに入れて、必要な分だけを購入。保管容器を持参すれば、自宅に帰ってからの移し替えの手間も省けて便利。



2 パンはリネンをひいたバスケットに入れてもらい、そのまま食卓へ。1、2個ならシリコン製のスタッシャーもおすすめ。



3 お肉屋さんでは、蓋付きの珪瑯製の容器がぴったり。下味を付けるなど、容器をそのまま調理に使えるメリットも！

くるん京都

URL
<https://kurunkyoto.wixsite.com/japan>

くるんお買い物マップ
<https://kurunkyoto.wixsite.com/japan/map>

Instagram
<https://www.instagram.com/kurun.kyoto/>

Twitter
<https://mobile.twitter.com/kurunkyoto>

島藤真紀（2022年2月5日取材）



ESGを軸に全社一丸で 環境経営を推進

日常に取り入れ SDGs を自分ごとに

マイボトルを囲んで

日本新薬株式会社

京都市南区に本社を構える日本新薬株式会社。1919（大正8）年の創立から100余年にわたり、医療用医薬品の研究開発を手がける京都発祥の製薬メーカーだ。社名のとおり、「新しい薬をつくる」こと、とりわけ難病・希少疾患に向けた創薬に注力し、画期的な新薬や優れた機能食品の提供を通して、人々の健康と豊かな生活創りに貢献している。

今回は、全社一丸となって「ESG経営」を推進する同社の取組やそこに込められた想いをESG・内部統制推進部の皆さんに伺った。

「ESG」を意識した経営で企業価値の向上

「この『ESG・内部統制推進部』というのはESG経営を推進するために、一昨年の4月にCSR・内部統制推進部から改称した部署です」。取材の冒頭、ESG・内部統制推進部長の板野圭司さんがこう切り出した。

同社は創業当初より、高品質の医薬品を世に提供することを本来的な使命としてきた。と同時に、社会や地域の発展に貢献することも企業の社会的責務であると考え、環境保全や社会貢献活動に取り組んできた。世界全体が持続可能な社会づくりを目指す中、その達成に向けて企業が果たす役割はますます大きくなっている。同社が未来に向けて持続的な成長を遂げるため

には、ESGという視点を経営の根幹に据えて、企業価値の向上とSDGsの目標達成に向けた取組を一層強化しなければならない。

「これまでも環境に配慮した取組はやってきましたが、どちらかといえば負の要素をなくそうとする守りの姿勢でした。これからは攻めの姿勢でSDGsに取り組んでいかなければならないと考えています」。

ESGとは
環境[Environment]、社会[Social]、ガバナンス（管理体制）[Governance]の頭文字を取ったもので、近年、企業の長期的な成長のために必要な経営の3要素である。

日常の気軽な取組でSDGsを“自分ごと化”

ESGという言葉が一般的ではない時代から、同社では全社員に向けてコンプライアンス教育を実施しており、その一環として、環境保全や社会貢献活動に対する社員の意識の向上を図ってきた。

「でも、“自分ごと”として捉えてもらうのが難しい。環境問題の深刻化や環境活動の重要性はわかっている、なかなか『自分が』とは考えにくいようです。そう話すのは、同環境部長の越智誠さん。一人ひとりが自然環境や社会の問題への意識や関心を高め、自分ごととしてSDGsに向き合うことが行動するきっかけになると考え、さまざまな啓発活動を行っている。

例えば、2019年の創立100周年の記念に全社員に「マイボトル」を配布。社内に給茶機を設置してマイボトル活用を推奨している。さらに、社内の全自動販売機でペットボトル飲料の販売を中止し、アルミ缶・スチール缶・瓶・紙パックの飲料に入れ替



給茶機からマイボトルに給茶する様子。1日3～4回給茶するという社員は「マイボトルを持つようになってドリンクを買わなくなった」と話す

えた。これらの取組によって、前年度1.2トンだったペットボトルの排出量が、2020年度はゼロになった。

また、コロナウイルスの感染拡大を契機にテレワークを導入し、スマートフォンを全社員に配布した。書類のデジタルデータ化に加え、会社貸与のモバイルパソコン・スマートフォンの活用が増えたことによって、OA紙・コピー用紙の使用量が大幅に削減。2020年度の削減率は前年度比38.7%に。加えて、グリーン購入法に適合した用紙の購入も継続的に進めている。

「食」を通して未来を考える啓発イベント

昨年9月には、身近な「食」という切り口からSDGsの理解を深めてもらおうと「いつもにほんの少しの“SDGs”」と銘打った社内啓発イベントを開催した。その内容は、食をテーマに考案された3つの取組から成る。

第1は、サステナブル・シーフード^{*1}やブルーシーフード^{*2}の提供。これらを使ったランチメニューが定期的に社員食堂に並ぶ。環境や安全に配慮され、味も好評、珍しさも相まって完売することも多いという。

第2は、全社員へのフェアトレード認証コーヒーの配布だ。同社の喫茶スペースでは、社員が気軽に参加



この日は、ブルーシーフードを使ったランチメニュー

コーヒーかすのたい肥化、現在進行中

社会貢献活動の一環として、生物多様性の保全にも取り組んでいる。

同社が運営する「山科植物資料館」では、1934年に、同社の発展に大きく寄与した回虫駆除剤の原料ミブヨモギの栽培試験圃場として開設された。世界中から収集した3,000種を超える薬用・有用植物を栽植し、絶滅危惧種や希少植物の保護活動にも積極的に取り組んでいる。一般見学会なども行っており、2020年度は約1,700人が来館。2019年には京都市輝く地域企業表彰の対象に選ばれ、「地域企業輝き賞」および「地域企業輝き特別賞」を受賞した。

現在ここでコーヒーかすをたい肥化する取組が進行中だ。前出の喫茶スペースに設置されたコーヒーメーカーから1日1～2キロ、年間になると数百キロのコーヒーかすが排出される。



左から、ESG・内部統制推進部環境部長 越智誠さん、同部長 板野圭司さん、同環境部門課長 野々村雅彦さん ※写真撮影のため一時的にマスクを外しています

できる社会貢献活動の一つとして、フェアトレード認証のコーヒーを提供している。「社内の喫茶を利用しない人にも、自宅でゆっくりコーヒーを味わいながらSDGsに触れてもらいたいとの想いが込められています」と同環境部門課長の野々村雅彦さんは話す。

第3は、「かつとばし!! プロジェクト」への参加。これは福井の箸メーカー主催の企画で、同社の硬式野球部から出る折れたバットを箸に生まれ変わらせるというもの。箸の売上げの一部はバットの原材料となるアオダモの植樹や育成に利用される。同野球部から出る折損バットは年間250～300本に上り、これまでは廃棄処分されてきた。役目を終えたバットをリサイクルすることで、自然環境保全や資源保護につながる取組だ。

^{*1} 将来も魚を食べ続けていけるように、持続可能な漁業や責任ある養殖で生産された水産物のこと。

^{*2} 天然の資源量が比較的豊富な海産物のこと。日本近海では、カツオやマイワシ、ハタハタなど。

これをたい肥として有効利用することを目指している。たい肥化した成分が個々の植物にどのように作用するのか、希少な植物が多いだけに慎重に実験を重ねている。

この他、社会貢献活動として、こども文学賞、きらきら未来こども募金、はしる図書館きらきら未来ゴー！、笑顔のアートプロジェクト、近隣小学校への出前授業、硬式野球部による野球の実技指導など、次世代を担う子どもたちの教育支援にも力を入れている。

企業としてESG経営を推進するためには、社員の理解と行動が欠かせない。「これからも日々の業務や生活の中で、環境負荷低減に気軽に取り組める機会づくりを行っていく」。同部の皆さんのSDGs取組強化に向けた強い意気込みが感じられた。

日本新薬株式会社 〒601-8550 京都市南区吉祥院西ノ庄門口町14
電話：075-321-1111（代表） FAX：075-321-0678 <https://www.nippon-shinyaku.co.jp/>

藤原 幸子（2022年1月18日取材）

Hand in Hand

マクドナルド未来への投資

マクドナルドでは、『私たちが住む地球を守りたい。地域社会のために、そして、将来のために。そんな思いで、省エネやリサイクル、食品ロス問題などに取り組み、気候変動対策に向き合っていきます』と掲げているように、日々、環境対策にも取り組んでいる。

今回、マクドナルドの環境対策について、日本マクドナルド株式会社サステナビリティ&ESG部の岩井正人さんから詳しくお話を伺った。

マクドナルドでは、ハッピーセットの「おもちゃリサイクル」を2018年から行っており、遊ばなくなったおもちゃを回収し、店舗内で使用されている緑のトレイや“おもちゃ回収BOX”として再利用している。

Q：これまでに回収されたプラスチック量について教えていただけますか？

岩井さん：おもちゃリサイクルの回収量は、2018年は73日間の回収で127万個、2019年、2020年は年3回の回収でそれぞれ330万個、274万個でした。2021年は3月19日から通年実施し、305万個を回収でき、これまでに285,700枚のトレイ^{*1}に生まれ変わっています。2020年



は2019年と比べ回収個数が減少していますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、来店者数が減少したことが要因だと考えています。

Q：トレイやおもちゃ回収BOX以外にも製品化を目指していますか？また、マクドナルドにおけるおもちゃリサイクルの今後について教えてください。

岩井さん：実は、リサイクル樹脂は他のものにも使用されていて、例えば、マクドナルドの店舗以外では、家電製品のプラスチック部分に使用されています。今後については、「おもちゃリサイクル」に参加されたお客様に対して行った調査でも満足度・継続参加意向ともに非常に高いことから、継続実施していく考えです。

Q：リサイクルする方が新しい資源で生産するよりも費用がかかると思いますが、実際にはどれくらいの費用差が発生しますか？

岩井さん：秘密です（笑）。コストがいくらかかるかは重要なことです。ですが、それよりも私たちがやらなければいけないことは、未来の環境を守ることです。これはコストではなく、投資です。私たちは、未来へ投資しています。

Q：2022年2月から、横浜エリアの一部店舗にて、紙ストロー、木製カトラリーの導入が始まりますが、これにより森林破壊等には繋がる可能性はありますか？また、木製の方がコスト高になるとおもいますが、実際はどうなのでしょう？

岩井さん：もちろんコストはかかります。ですが、これは先ほどのお話の通り投資です。それから、森林破壊。おっしゃる通りですよね。私たちは木製や紙製にすることによって、森林破壊をしてはいけないと考えており、FSC認証^{*2}の紙やカトラリーを使うことに決めました。



この他、マクドナルドでは使用後の揚げ油を主に鶏の飼料としてリサイクルしたり、一部の地域では店舗から出たコーヒーかすをたい肥化し、それらを使って近隣の農場で育てたレタスを店舗で提供するなど、食の循環にも積極的だ。

マクドナルドは、「おいしさと笑顔を地域の皆さまに」というパーパス（存在意義）に基づき、美味しくてパリューのある食事を提供するだけにとどまらず、世界で問題視されている環境課題にも向き合い、さまざまな分野で進化し続けていこう。今後も、マクドナルドの環境への取組に注目したい。

^{*1} このプロジェクトで回収されたおもちゃからできたリサイクル樹脂を10%程度含む。

^{*2} FSC認証とは、環境、社会、経済の便益に適い、きちんと管理された森林からの製品を目に見える形で消費者に届け、それにより経済的利益を生産者に還元する仕組み

村上 晴南（京都光華女子大学キャリア形成学部）
（2022年1月25日取材）

なごみ
日和



KBS 京都 アナウンサー
うみひら なごみ
海平 和

●● 第33回 「舞鶴流木アート」 ●●

京都府北部、舞鶴市。雪が残るのどかな雰囲気の中で出会ったのは、「ケロリン」や「オオカミ女」と名付けられた未知の生き物たち。全て、上林比東三さん（70）が流木で作られたものです。車の钣金塗装や修理を行う上林さんは、6年前、仕事の合間に海を散歩していた時に変わった形の流木と出会い、何か作りたいと思ったのがきっかけで流木アートを始めました。これまでに作った作品は、掌サイズのものから2m近いものまで、その数5~600点。今も3日に2作品のペースで増え続けています。

神崎海水浴場で流木を探る上林さんは、少年のように目を輝かせます。流木をみて、「本来こういう形になりたかったと違

うかと思えてくるんや、それに命を吹き込んでやる」と話す上林さんにとって、その海岸は宝箱なんだそうです。なんとセクシーでいいなあと感じたという、まるで2本の足がねじれたかのように見える流木は「オオカミ女」として生まれ変わりました。

自然が大好きな上林さんは、「自然が生み出したものでつくる作品だから、見ていても優しい気持ちになれるし、作っている時も夢中になれる」とも話されました。そしてこれからも作品を作り続ける中で、自分も作ってみたいなと思ってもらえたり、また色々な地域の作家、アーティストの方の輪を広げ、ひっぱり続けていけたらとも。上林さんの作品にふれ、楽しく優しい気持ちになりながら、自然の美しさ、大切さも感じた出会いでした。



海平 和：京都市出身、2010年KBS京都入社。2022年4月から、テレビ「京biz」、ラジオ「ファミリーレストランと海平和のめっちゃうま」などに出演。

人と物と。 織りなす「もっぺん」物語



第20回

アーティフィシャルフラワー（造花）の修理 京都フラワーサービス

晴れの日や記念行事などに添えられるブーケやフラワーアレンジは、その人にとって愛情や感謝、喜びや祈りが込められたかけがえのないもの。

いつまでも大切にしたい花であっても、時を経て劣化することもあります。もし、よみがえらせることができるなら…。そんな人々の花への思いを受け、お手伝いできればと、時岡貴美乃さんはアーティフィシャルフラワーの制作の合間に補修を手がけるようになりました。

引越しや模様替えなど、日々の暮らしの波にさらされ、大切な花が汚れたり、傷ついたり…。そういう時の相談に時岡店長は動きます。「別に宣伝しているわけでも、本業でもないのに、全国から依頼が来て…」と語ります。補修作業は、簡単ではありません、落ちた花びらを接着し、染料を使い、色を復活させます。ぺちゃんこになったブーケを元の形に戻すこともあるそうです。補修を終えた後、依頼者の手元に送り返すと、必ず感謝のメッセージが店長の元へ届くといいます。



色あせしなだれたブーケ



見事に復元されたブーケ

「Something 4（サムシングフォー）」という英国の結婚式にまつわる言い伝えを店長は話してくださいました。その中の1つは「Something Old（サムシングオールド）」と言って「何か古いもの」を身につけたり、使うこと、それが幸せと繁栄をもたらすと語り継がれているそうです。

花への慈愛を湛えた時岡店長の笑顔が心に残りました。



オリジナルブーケを手にした時岡さん

▶ 京都フラワーサービス 〒603-8053 京都市北区上賀茂岩ヶ垣内町98-11大観301号
Tel: 075-721-7458 Fax: 075-724-3311 E-Mail: Kyotoflower1@gmail.com

森田知都子（2022年1月18日取材）

地域活動レポート

～上高野エコ推進会議～

若い世代も「参加しやすい」活動を目指して！



上高野エコの役員のみなさん。
前列右から、矢野副会長、山口会長、赤間さんの息子さん。
後列右から、赤間さん、藤沢さん、内藤さん

高野川と岩倉川が合流し、宝ヶ池公園をはじめ豊かな自然に囲まれる上高野地域。1月、比叡山系をはじめとする周囲の山々はうっすらと雪化粧し、澄んだ空気に包まれていました。コロナ禍での生活が3年目を迎えた2022年。地域住民が協力して環境活動を続けるための工夫や課題について、上高野エコ推進会議のみなさんに伺いました。

三世代でつくる、住みよい上高野

上高野エコ推進会議（以下、上高野エコ）の発足は、平成17年。歴代会長の佐藤雅彦さん（現副会長）、矢野忠明さん（現副会長）、そして現会長の山口勝彦さんの熱意溢れるリーダーシップにより、活動のバトンを繋いできました。今年（令和3年）度、設立時の名称であった上高野地域ごみ減量推進会議から「上高野エコ推進会議」への名称変更が実現。「ごみ減量だけでなく、幅広くエコ活動を推進できれば」と矢野副会長は想いを語ります。

取材には、役員の内藤さん、藤沢さん、赤間さんと息子さんも同席してくれました。聞けば、息子さんは幼稚園に通う頃から上高野エコの活動に参加しており、熱意は人一倍。山口会長も一目置く頼もしい存在です。シニア世代・子育て世代・そして若者世代が一丸となって地域の環境活動を盛り上げています。

上高野小学校と連携して



6月に実施したクリーンキャンペーンにて



2019年10月に開催したエコバスツアーの様子。上高野小学校の児童と一緒に（さすてな京都にて）

上高野小学校では、毎年学校行事として校区内の清掃活動「クリーンキャンペーン」を行ってきました。上高野エコもこの活動に賛同し、児童と一緒に清掃活動に参加。その際、路上などの目につきやすい場所だけでなく側溝に落ちているごみも丁寧に拾うよう心がけています。「高野川に流れ込むごみ、特にプラスチックごみは、海に流れ込み『マイクロプラスチック』となって海洋生物の命を脅かします。川の上流に住む者として見過ごすわけにはいきません。」と山口会長。活動の際には、児童たちに「なぜごみを拾うのか、自分たちが住む地域と環境問題がどのように

繋がっているのか」を分かりやすく伝えます。しかし、コロナ禍で小学校とのクリーンキャンペーンは2年連続中止に。それならば、上高野エコの役員で清掃しよう！と、令和3年6月と11月にクリーンキャンペーンを実施。地域住民にも声をかけ、活動の輪が少しずつ広がっています。高野川周辺の水域は、蛍の生息地でもあり地域の宝です。児童たちとの清掃活動を再開できる日を待ち望んでいます。

サポーター制度の導入を目指して

「今後の課題は、自分たちの活動に賛同してくれる人をどうやって増やすか」だと山口会長。少しでも地球環境問題に関心のある人たち、そして今年度実施した「パワーリーフ*の苗の配布会」や「生ごみコンポストの講習会」に参加してくれた人たちが、継続的に活動できるよう『サポーター制度』の導入を目指します。



生ごみコンポストの講習会の様子

「僕らは若い頃、真剣に生産活動をしてきた。しかしその結果、地球環境に大きな負荷をかけてきた。ここで逃げたら卑怯だ。その責任をしっかりと負い、次世代のために行動したい」。矢野副会長の想いは、役員みんなの想いでもあります。

世代を繋ぐ熱心な環境活動が認められ、上高野エコ推進会議は令和3年度（第19回）京都環境賞の奨励賞に選ばれました。他地域との交流も深めながら、常に新しい活動に挑戦し続ける上高野エコに、今後も注目です。

*熱帯アメリカまたは熱帯アジアに自生するつる性の多年草で、夏のグリーンカーテンとして注目されている。葉酸やミネラル（カルシウム、マグネシウム、亜鉛、銅）、ビタミンAを多く含み、茎や葉に加え、球根、葉腋にできるムカゴも食べることができる。

松村香代子（2022年1月15日取材）

新コーナー 『わたしのごみ減らし術』 ▶ 冷凍庫の保存パワーで、野菜を使い切り

食べきれなかった野菜を冷蔵庫の隅に放置して、最後はごみ箱へ。こんな無駄をしていませんか？小松菜、白菜など葉菜類は適当な長さに刻んで保存袋等に入れ、冷凍庫へ。色も味もみずみずしいまま保存できます。おでん材料の定番、大根も、好みの幅に輪切りでOK。薬味に使うネギもお任せ。新鮮さそのままに必要な時まで保存できます。冷凍の力を活用すれば食材のムダなし。今日からできる食品ロス対策です。（上京区 Tさん）

